

投稿は投稿者の住所、電話番号を記入し、役場広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。

短歌

末武 有二 選

復旧の橋を渡れば一望の家並み懐かし父母眠る里
安永 守住 孝子
仏壇にお膳供えて新年のあいさつ済まし一人とそ酌む
安永 川野 光子
コロナ禍の年始はまこと静かにて飾り控えめ令和三年
宮園 島 みつき
雪の舞ういてつく寒さ黙々と工事成しおり復旧待たる
惣領 島田 廣子
指宿の海鎮まりて山並みは影絵となりて一日暮れゆく
安永 山下たか子
松の内娘と二人赤井池もや湧く水源たたえつ歩く
宮園 金子フム子
飯田山眺めるたびに思ひ出す崖駆け上る夫の雄姿を
田原 永田巳智子
くちなしの実少し加えて大根の本漬けをする小春日の午後
木山 本田 龍子
寒き朝地区清掃で吐く息を口から煙出ると孫言う
広崎 日野ヒロ子
床擦れの痛みに耐える我の目に介護の嫁は仏に見える
赤井 増岡 伸禧
病室のカーテン越しに響く声まごうかた無し隣家の奥方
広崎 松原まゆみ

俳句

河野 全平 選

どんどの炎コロナでしめりがち
三密を避けて巣ごもり雪見酒
コロナ憎しはなればなれの初詣
道の辺の枯芝ひそと春を待つ
初夢の吾子ぬくぬくと胸に抱く
コロナ禍や七草がゆもほろ苦し
マスクして寂しき年の始めかな
筆書きの君の律義な年賀状
鎮もりて母校見守る辻ヶ峰
一句鑑賞
冬草や黙々たりし父の愛
富安 風生

川柳

布田川左門 選

『お題』 自由詠
ステイホーム睡魔が襲う掘りごたつ
自粛してよく食べさする二段腹
「どっこいしょ」掛け声掛けて皿洗い
『お題』 古代人
「一夫多妻」男冥利の古代人
「どちらから」我らが祖先古代人
地が裂けてよろばい出たり古代人
安永ちずこ
広崎サイ子
江津美佐子
赤井の天才
村 夫 子
やぶにらみ

※参考例

我が町に古代ひよっこり甕棺墓

川柳のお題 「新庁舎」

益城の文化財
町文化財保護委員会



木 山

町指定重要文化財

木山神宮神殿再建工事(3)

神殿再建中の木山神宮では、昨年10月17日に、建物の最初の柱を立てるときに行う神事である「立柱式」が古式ゆかしく執り行われ、建て方工事が始まりました。既存の材料を可能な限り再利用するという修理方針に沿って、伝統的な工法・技法で令和3年末の完成を目指します。

江戸時代は、社寺が各村々にまで普及した時代です。神社は、村人の願いを聞き豊作をもたらす神の居所、寺院は村人たちが来世を念じつつ仏の教えを聞く会所であると同時に、身近な芸術的空間でもありました。

藩主の転封(国替え)が多かった17世紀は、中世以来の土着の木工の持つ技法と、新しく伝えられた中央的、あるいは他地方の技法が共存・混合していました。18世紀に